

日本ペンクラブ女性作家委員会 文学イベント

第4回 作家が自作を語る



©freedesignfile.com

どんな思いを込めて、その小説を書いたのか……。創作の喜びと苦しみ、職業作家のたくらみと工夫、自信と不安、主人公への共感、現代社会と女性について思うところ、など、自由に語るひととき。作家の肉声が、あなたの読書を、さらに豊かに、深く、耕すでしょう。

開催日 2019年5月26日（日）

時 間 午後2時～4時（午後1時30分開場）

会 場 東京堂ホール

（東京都千代田区神田神保町1-17 東京堂書店6階）

出 演 大本 泉（仙台白百合女子大学教授）『作家のまんぷく帖』を語る



木内 昇（作家）『球道恋々』を語る



ドリアン 助川（作家・歌手）『水辺のブッダ』を語る



司 会 松本 侑子（作家・翻訳家）



定 員：100名・要予約（申込方法は裏面参照）※中学生以上

参加費：1000円 ※作家の本を販売、サインします。

主催 一般社団法人日本ペンクラブ

協力 株式会社 東京堂

《出演者プロフィール》

大本 泉（おおもと・いずみ）

仙台市生まれ。日本女子大学大学院博士課程修了。仙台白百合女子大学教授。ロンドン大学客員研究員等就任。著書に『名作の食卓』（角川学芸出版）、『作家のごちそう帖』（平凡社新書）、編著に『日本語表現 演習と発展』（明治書院）、『小説の処方箋』『神経症と文学——自分という不自由』（以上、鼎書房）など。日本ペンクラブ女性作家委員。

木内 昇（きうち・のぼり）

1967年東京生まれ。出版社勤務を経て、インタビュー誌「Spotting」を主宰。08年『茗荷谷の猫』（文春文庫）を発表し、翌年早稲田大学坪内逍遙大賞奨励賞を受賞。11年『漂砂のうたう』（集英社文庫）で直木賞、14年『櫛挽道守』（集英社文庫）で中央公論文芸賞、柴田錬三郎賞、親鸞賞を受賞。他の著書に、『笑い三年、泣き三月。』『ある男』（文春文庫）『光炎の人』（KADOKAWA）『火影に咲く』（集英社）『よこまち余話』（中央公論新社）など。

ドリアン 助川（どりあん・すけがわ）

1962年東京生まれの神戸育ち。早稲田大学第一文学部東洋哲学科卒。放送作家を経て、1990年バンド「叫ぶ詩人の会」を結成。ラジオ深夜放送のパーソナリティとしても活躍。著書多数。映画化された小説『あん』は現在13言語に翻訳されている。他の近著に『新宿の猫』（ポプラ社）。2017年、同作がフランスの「DOMITYS 文学賞」と「読者による文庫本大賞」の二冠を得る。日本ペンクラブ理事、「子どもの本」委員長。

松本 侑子（まつもと・ゆうこ）

1963年島根県生まれ。筑波大学卒。1987年『巨食症の明けない夜明け』ですばる文学賞、2010年『恋の蜚 山崎富栄と太宰治』で新田次郎文学賞受賞。シェイクスピア劇など英文学と聖書からの膨大な引用を解明した日本初の全文訳『赤毛のアン』（集英社文庫）。最新刊は、詩人・金子みすゞの伝記小説『みすゞと雅輔』（新潮社）。

《お申込方法》

希望参加者1名につき1通をご記入の上、いずれかの方法でお申込みください。

- ①電子メールでのお申込みの場合は、タイトルを「作家が自作を語る申し込み」とし、本文に、氏名、年齢、電話番号をお書きください。

送付先 secretariat03@japanpen.or.jp

- ②往復はがきでのお申込みの場合は、「往信用裏面」に氏名、年齢、郵便番号、ご住所、電話番号をお書きください。「返信用表面」に返信先の郵便番号、住所、氏名をお書きください。

送付先 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 20-3
日本ペンクラブ「作家が自作を語る」係

※折り返し入場整理券をお送りいたします。2週間以内にメールまたは返信はがきでの連絡がない場合は、恐れ入りますが下記問い合わせ先にご連絡ください。

《会場地図》



最寄駅

- 東京メトロ半蔵門線「神保町駅」
- 都営新宿線「神保町駅」
- 都営三田線「神保町駅」

いずれも A7 出口より徒歩 3 分

お問い合わせ先 日本ペンクラブ事務局 TEL 03-5614-5391